

第29回石川建築賞 受賞作品

知事賞 かほく市立宇ノ気中学校

設計者：(株)五井建築設計研究所 施工者：校舎：真柄・安原・沢野特別共同企業体
体育館：城東・河北特定建設工事共同企業体



オープンスクール型の学校建築が誕生して30年余り、やや形骸化した昨今の学校建築 にあって、将来教科教室型に移行しても対応できる建築計画が実施されていて、新鮮さを感じさせた作品である。中学校の敷地としては狭く、そのため校舎を4階建てとしている。しかし、校舎と体育館に挟まれた1階の中庭的な外部空間は、かえって開 放的なオープンスペースを形成しており、ゆとりのある空間が創出されている。校舎の内部空間においても、随所にヴォリュームのある抜け空間を設けて、媒体空間の比率を高め、空間の豊かさや質の高い空間が構築され、ゆとりのある学校建築の在り方を教えてくれる秀作である。

優秀賞 里山の家

設計者：谷重義行 + 建築像景研究室 施工者：松浦建設(株)



一度はこんな場所でこんな家に住んでみたいと思わせる住宅である。建物は豊かな自然を残す里山の風景に同化しつつ、その存在感をしっかり主張している。背後の高台にある樺の大木と微地形に合わせた住宅の配置計画は、絶妙にマッチをしている。扇状の平面構成は、どの部屋においても良好な眺望が楽しめるように演出されている。これは時間をかけた検討と計算尽くされた結果であり、高く評価される。四季折々の風情を五感で感じながら至福の時間を過ごしたいという施主の里山での生活願望が見事に実現させている作品である。

入 選 土田歯科医院

設計者：(有)トイトデザイン 施工者：道場建設(株)



患者と診療スタッフの動線空間である通路をそれぞれ分けたことが独創的で、それがしっかり機能している点が高く評価された。また診察室は隣同士が隔壁で閉ざされているが、患者が出入りする箇所は、半透明の可動パーティションを付けて半個室化することによって患者のプライバシーが保たれ、患者本位の空間となっている点も評価された。建物の正面は床から軒先まで一枚ガラスで造りあげ、それを水平方向に連続されることで、全面が一枚のガラスで構成されているようにみせ、インパクトのある外観を創り出すことに成功している作品である。

入 選 F-tube

設計者：(有)トイトデザイン 施工者：道場建設(株)



すでに密集化した傾斜地の住宅地において周辺との調整をどのように取り進むかという課題に対して、平面計画では1階にプライベート空間、2階にパブリック空間をもってきている。これにより個人住宅としてのプライバシーは担保され、順当な解決方法であろう。2階のワンルーム化したパブリック空間(LDK)は、生活感を出さないシンプルな空間にするため、生活用品などの小物まで壁面にさりげなく納めるなど、様々なところに卓越した工夫がみられる。外観は白と黒の直方体を上下に重ねた、シンプルで明快な手法が採られ、立面のプロポーションも端正にまとめられた作品である。

入 選 彦三の家

設計者：長村 峰行

施工者：兼六建設(株)



この建物は一般事務所兼住宅で、立地する街形態は、小規模ビルと住宅とが混在する都市環境にある。隣接する既存住宅に対して採光、通風、プライバシーに損失を与えないように階高を下げたり、窓が相互に対面しないようにずらしたりして、自らの家を既成の周辺環境にしたがいながら馴染ませる手段が採られている。居住空間は2階にあるため、光の透過性の高い有孔折板で被ったバルコニーを設けて、室内側からの開放感を、そして外部からのプライバシーを巧みに確保している。都心の住宅にあって、安心かつ快適に住むという課題に真摯に取り組んでいる姿勢は好感をもって受け入れら、都心居住の在り方に一石を投じた作品であることも高く評価された。